

# 土・まち・みどり

通信 第47号

2012.5.6

発行 NPO 法人土とみどりを守る会

連絡先 6421-2118 (事務局)

CONTENTS ◆早春のつどいレポート1 ◆おくさわ今と昔 ◆奥沢の歴史を訪ねて  
◆早春のつどいレポート2 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

今回の早春のつどいでは、暦を通して日本人の祖先が築いてきた文化を知り、日本の心情に溢れた一人語りをチェロの伴奏で聴き、現在では忘れかけている日本人の心を見つけるイベントでした。

## 早春のつどいレポート1

# お話 「日本人と暦」

今回のお話は多摩美術大学講師で民俗情報工学研究の井戸理恵子さんから、日本人と暦についてのお話を聞きました。

昔の人は、暦・仕来り・習慣を生活の指針として従ってきた。これらは明治以降の近代化に、迷信として捨てられたものもあったが、経験に基づく合理的なものが多かった。河童の伝説は、危険な場所の警告と思われる。このような民俗伝承を集め、もともとの意味を読み解き、当時の日本人の考え方を理解し、日本人らしい生き方を見つけて行こうと言うのが研究の目的である。

日本の自然のなかで、主に農耕で暮らしを立てていた日本人に、暦は太陽暦（新暦）、太陰暦（旧暦）が共に重要な役割を持っていた。

太陽暦では、二十四節季（立春・雨水・啓蟄・春分・夏至・秋分・冬至・小寒・大寒）や雑季（節分・彼岸・八十八夜・入梅・二百十日・二百二十日、太陰歴では、節句（三月三日・五月五日・九月九日）があり、きめ細かな季節感、農耕の適期等自然とともに生きる技術が表現されている。

今から1200年前の貞観年間（860-880年頃）の短期間に、富士山・阿蘇山の噴火、越中越後・三陸・関東の震災や大津波という天災に様見舞われ、これを契機に神国意識・平安祭祀の確立、陰陽道・修験道が形成され、日本的な文化が醸成されるようになり、暦の学問も広がった。

自然への信仰、特に山への信仰が日本の特徴である。山自体が神であり、山の神に聞いて農耕の計画を立てた。また畠を荒らす害獣としてのイノシシ、シカ、サルなどを追い払ってくれるオオカミは農耕

の神として敬われた。

鎮守の森は、水の枯れない安定した岩盤のある高台で、森林の生態系が維持され、洪水や山崩れの起きない緊急時の避難に耐えられる場所が選ばれた。神社は建築というよりも神林であり、トータルシステムとしての「イノチ」が温存されている。20年に一度の「伊勢ご遷宮」は日本が誇る「生態系と文化を守り続けるための仕組み」の1つとして機能してきた。

日本を訪れたフランシスコ・ザビエルは、日本人に他の民族との違いを感じた。日本人には、自然の摂理に則っているか、で判断するという「理」に学ぶ姿勢があり、昔の人を尊敬している。また明治の初めに来日したエルヴィン・フォン・ベルツは、日本固有の文化を捨てて、西欧化していく日本の姿を批判している。

奥沢二丁目には、樹齢200年以上のケヤキの大木が2本有りました。今ではその1つが残っています（世田谷区地域風景資産に選定の大ケヤキのある散歩道）。昔、世田谷城、奥沢城（九品仏）、八幡神社（奥沢神社）の東をこの2本のケヤキが守っていたそうです。（鈴木）



# おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

## 「私の奥沢」

奥沢1丁目 塩谷 良一

私が、大田区の蒲田から奥沢1丁目に引越して来たのは、昭和36年の4月でした。

奥沢の駅前には、写真屋さんや病院があり、八百屋さんや魚屋さんが入った木造の市場もありました。父が奥沢に買った家を、はじめて見に来たのは夜でしたので、目蒲線の奥沢駅で降り、大脇病院から斜めに延びた道を下りながら、薄暗い町だと思いました。

私は小学校の5年生でしたが、集団遊びを通して、友だちとも比較的早く仲良しになりました。遊びはほとんど道路で、「缶けり」などをして遊びました。

大きな家も多く、所どころには畑もありました。やがて世代が変わり、バブル期の影響などでも、大きな家は一つ無くなり、また一つと無くなって、そこには数軒の家が建てられました。大きな桜の木も、あったと思います。

いま、世田谷区では、区制100周年(2032年)までに、区の面積の1/3(33%)をみどりにしようという運動をしているそうです。みどりは地球に生きる全ての命を育む大切な存在ですので、「世田谷みどり33」の達成により、「みどりとみずの環境共生都市・世田谷」を実現するそうです。

みどりが地表をおおう部分に、公園区域に水面を加えた面積が、地域全体に占める割合を「みどり率」と言うそうです。生垣助成や花壇助成、屋上・壁面緑化助成もされているようですが、みどり率はまだ、25.56%(平成18年)だそうです。

こんな中、「土とみどりを守る会」のみなさんは、「大きな木を残して!」「勝手に開発や造成をしないで!」と、さまざまな活動を通じてされているようですが、美しいみどりの町奥沢、ふるさと奥沢を守るためにも、町内のみなさんが、理解と協力で、思が一つになればと願っています。



## 「震災後」

奥沢2丁目 古明地 秀正

東日本大震災から1年以上が経過、震災前と震災後の大きな変化には驚くべきものがあります。震災前私は、「原発」は絶対安全と信じ、火力発電と違いクリーンで安定、将来は供給比率を高めていくべきとの考えでした。今となっては間違っていたと言わざるを得ません。原発事故の終息には何年が必要か、今誰も答えられません。廃炉にも30-40年かかり、使用済み核燃料の回収、保管と処理、目に見えない放射能の恐怖等、生活の不安は原発の周辺に留まりません。原発事故と言う「人災」の最大の罪深さは、福島人が生まれ育った「故郷」へ一生戻れぬかも知れないという恐怖心を持たねばならぬ事です。被災者にどの様に寄り添う事が出来るのか、解決策も思い付きません。今年の夏は電力需給が逼迫すると言われ、節電には協力するとしても、今は兎に角「脱、原発依存」を強く推し進めて行くことが肝心だと思っています。

震災後流行した言葉に「絆」があります。都会に住んでいると、隣近所の人達との交流は多くは有りません。しかし地域の中でも絆は大切です。地震・津波に限らず自然災害及び緊急時に、隣近所の緊密な連携は不可欠だと思います。日頃から挨拶を交わし、ちょっとした情報交換をしている事が、役に立ち「防災対策」にも繋がるのではないのでしょうか。奥沢2丁目界限は高齢者が多く、一人住まいの方も多いようです。「絆」という震災の教訓を生かすべき環境に有ると思います。

「土とみどり」に入会して1年程、地域に少しばかり貢献したいと思う気持ちで、会員・ご近所の方々と話す機会が少し増えました。被災地の問題は日本の問題であり、我が地域の問題もまた然りです。地震・津波・脱原発・復興・絆・防災・環境・土とみどり・平和・政治・経済、一見関係無いような言葉や現象が「根っここの部分」で連鎖しているように感じるのは私だけでしょうか。最後に瀬戸内寂聴の講話から引用、「自分の為でなく、人の為にくすという精神」(忘己利他~天台宗・最澄)が、今こそ必要ではないでしょうか。

## 奥沢の歴史を訪ねて②

### 奥沢の字（あざ）について その2

奥沢本村に初めて農民が住み着いたのは 1570 年、元亀元年に和田義盛の二男朝盛より 8 代の嫡流朝清が家臣 12 名と共に武蔵野国荏原の里即ち奥沢本村に来住したと伝えられている。二代長男朝澄は名主を務め、二男朝信は名主を務めた後諏訪大明神を守護神とし分家、そこを「大字（材アザ）諏訪山」と称した。奥沢 1-33-2 和田家に今も残るといふこれが「字諏訪山」の起こりである。江戸時代は天領となり、後に奥沢本村 55 石が旗本渡辺孫三郎勝（かつ）の知行地として与えられた。

奥沢本村の字（アザ、大字の下のより小さい集落単位、小字・地区等の別称もある）は「字開平（古くは朝鮮丸）」・「字稻荷丸」だけであった。

一方、奥沢新田村（禄高 400 石）は寛文 2 年幕府天領として奥沢村から分離独立するが、この二つの村が再び合併するのは明治 9 年のことになる。奥沢新田村は寛永年間（1622～44）幕府の新田開発の方針に呼応した近隣（等々力・深沢・中根・千束等）からの入植農民によって開墾された村で、戸数 83 軒、今も子孫が多く在住しておられる。

奥沢の台地は雑木林、竹林等草ぼうぼうの荒地地で、その開墾は大変困難を極めた。最初に住み着いたのは丸山台地で「字丸山」（ほぼ現 1、3 丁目）、その北が通り名や祭り御輿に残る「字諏訪山」、さらにその先「字沖ノ谷」迄が中丸山台地と呼ばれた。

一方九品仏川（旧名丑（ウシ）川）の湿地帯は水はけが悪く、地味は痩せ、僅かしか収穫出来なかった。ここは後に「字沖ノ谷」と「字鷺ノ谷」に分割された。「字沖ノ谷」は、旧下沼部村（大田区）飛地（村と離れて他の村の中に存在している区域）であったが、明治 22 年近隣 8 か村が合併、新しく玉川村が成立し、旧村の区域はそれぞれ大字（おおあざ）となった時、玉川村に編入され、大字奥沢に所属した。その後字区域の変更があり、大蛇通りから北側の中丸山台地を組み入れ、低地より台地の方が多くなった。ここが昭和 7 年海軍村となる地域である。

しかし、「字諏訪山」は目蒲線により南北に分断されてしまい、

（私たちの住むまち奥沢の成り立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介します。）

南半分のみが今に伝承されている。

また、世田谷区成立時には現目黒区から旧衾村飛地「字鷺草」が「大字等々力」に編入され「字鷺草」となった。

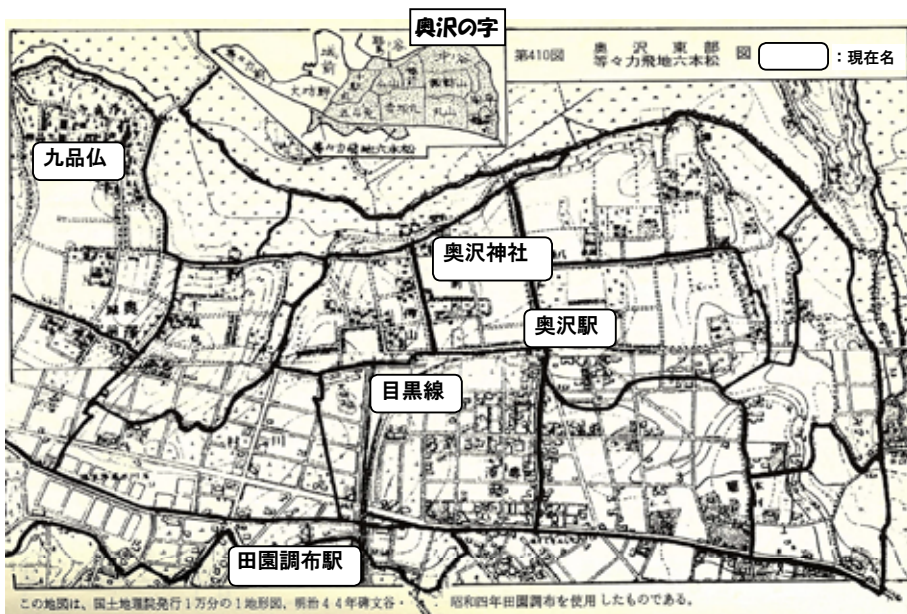
その時 玉川の名前は合併するとき特に目立った名前はなく皆同じくらいなので、共通して関係の深い玉川（多摩川の旧名）の名を付けた。関東大震災以後急速に東京郊外の人口が急増していくが、玉川耕地整理組合が組織されたり、地主であった旧年寄原家による耕地整理販売してできた海軍村や東横線の開通、大井町線の開通・延伸等があり、昭和 7 年に世田谷・駒沢町、玉川・松沢村で世田谷区が成立するに至った。この頃私の両親が奥沢駅北に東急分譲地を百坪五百円也で購入、新生活を始めた。

明治 14 年の地図を見ると自由通りは奥沢神社で緑が丘方面に曲がっているが、自由が丘への道はかなり狭い。奥沢神社が奥沢の台地の東端にあり、奥沢城の東南の護りとして置かれたのがわかる。

現在大平砦と伝えられているのは奥沢小学校ないしはその前の東玉川 1-4 辺りになるが、砦には相応しくない平坦な場所であるので疑問視されている。只、その直ぐ南には東西方向に呑川迄湧き水に発する浅い流れがあるので、大平清九郎が吉良頼康から諏訪分（大平分）の開墾を許可され、その一族が入植した時の柵・館・小屋等の跡だったかもしれない。その後、大平氏の分家が現在も住んでおられるという。

（赤松）

参考資料①世田谷の地名下巻 ②奥沢物語 大谷修二著  
③郷土史おくさわ 奥沢神社著



# おくさわコンサート♪

ひとり語りの古屋和子さんとチェロ奏者の佐藤道子さんお二方によるコンサートでした。

お話は、宮澤賢治作の「虔十公園林」・私たちの会にふさわしく、いつまでも残る木を植えた人（虔十）の話、安房直子作の「火影の夢」・ストーブの炎に隠された不思議な物語です。

古屋さんの語りに寄り添いながら紡ぎだされるチェロの音色・・・言葉と音が醸し出す響きに、物語の情景が浮かび上がり、話に吸い込まれていきました。

中には心地よい世界に入られている方もあり、ちょうどストーブを囲んでいるように暖かな空気に包まれて静かに時が流れました。

きっと参加なさった方々は寒い冬の日に心があたたまつて帰られたのではないのでしょうか。（玉置）



（かつて虔十の植えた苗は今・・・）

## 活動報告

- 2月8日（水）に、世田谷生涯大学で稲垣道子さんが教える講座の生徒さん総勢28名が、奥沢2丁目のまち歩き見学に来られました。前回と同じように、緑が丘の駅前に集合し、地域風景資産に選定されている「大ケヤキのある散歩道」から「奥沢海軍村」経由、「奥沢神社」までご案内しました。講座で既に勉強されていたので、皆様よくご存知で快い時間を過しました。
- 4月21日（土）に、春のチェリーセージプランターのメンテナンスを実施しました。会ではシンボルフラワーであるチェリーセージのプランターを、有志の方の道路に面した宅地に置かせて頂き、年に2回、剪定、土換えを行っています。現在は2丁目が主ですが、拡大しようと考えています。ご関心の方は下記連絡先へ声をおかけ下さい。

## 会からのお知らせ

- ミニ園遊会を、5月19日（土）11時30分（雨天の時は翌日）より奥沢2-32-15のいつもの空地をお借りして開催します。皆様のお越しをお待ちします。
- NPO法人土とみどりを守る会の総会を、ミニ園遊会に先立ち10時30分から開催します。会員の皆様には出欠の葉書を届けたので、総会欠席の場合は委任状に捺印の上ご返送下さい。19日雨の場合は、20日に延期、20日も雨の時は奥沢東地区会館で行います。
- 今年度1回目のフラワーアレンジメント講習会を、6月9日（土）午後1時半から奥沢東地区会館

で開催します。今回のテーマは「花束に一会の余韻を・・・」です。チラシ等でご案内します、お楽しみに。

- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える年会費は1口1,000円です。活動に直接参加されなくても、会活動を継続的にご支援頂けると幸いです。どうぞ御協力をお願い致します。入会のご連絡は下記へどうぞ。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659

ホームページ : <http://tsuchimidori.net>

e-mail : [info@tsuchimidori.net](mailto:info@tsuchimidori.net)